

コロンビア政治情勢（2024年7月）

1 概要

【内政】

- (1) 人事関連
- (2) 違法作物栽培撲滅目標に関する進捗（7日）
- (3) 違法武装勢力の動向
- (4) サルバトーレ・マンクース元コロンビア自衛軍連合（AUC）司令官の釈放（11日）
- (5) EMCとの和平交渉（9日～15日）
- (6) 大統領による年金改革法署名式典開催（16日）
- (7) 議会関連
- (8) 保守党初の女性党首誕生（25日）
- (9) コロンビアで武力紛争犠牲者増加（30日）
- (10) 世論調査

【外交】

- (1) ペトロ大統領、パナマ大統領就任式に出席（1日）
- (2) ペトロ大統領、国連安保理コロンビア会合に参加（11日）
- (3) ムリージョ外務大臣のブラジル訪問（25日、26日）
- (4) ペトロ大統領の訪仏（24日～29日）
- (5) コロンビアと米国、麻薬密売撲滅に関する合意を発表（25日）
- (6) ベネズエラ、大統領選挙に関連したコロンビア人の入国を拒否（26日）
- (7) ベネズエラ大統領選挙に関するムリージョ外務大臣の声明（29日）
- (8) コロンビア、ベネズエラ大統領選挙に関する米州機構（OAS）決議案の投票を棄権（31日）

2 本文

【内政】

(1) 人事関連

内閣改造が行われ、1日にアンヘラ・ブイトラゴ法務大臣及びマルタ・カルバハリーノ農業大臣が、2日にマリア・ガルシア運輸大臣が、3日にフェルナンド・クリスト内務大臣が、9日にダニエル・ロハス教育大臣及びヘルガ・リバス住居都市国土大臣が就任した。

(2) 違法作物栽培撲滅目標に関する進捗

政府は、2024年までにコカ葉等の違法作物栽培を1万ヘクタール撲滅するとの目標

を掲げているが、現時点で目標の約23%に相当する2,278ヘクタールしか達成されていないことが明らかになった。なお、政府による同撲滅活動に対する妨害行為が散発的に報告されている。

(3) 違法武装勢力の動向

ア 11日、カウカ県において、EMCにより国軍ヘリコプターへの攻撃及び警察署へのドローン攻撃が行われた。

イ 10日、カウカ県において、EMCによりマルケス副大統領の警護部隊が武装勢力による襲撃を受けた。なお、襲撃の際に同副大統領は別のイベントに参加しており無事だった。

ウ 13日、カウカ県において、国軍部隊施設がドローン攻撃に晒された他、違法な道路封鎖も行われた。

エ 14日、ナリーニョ県において、セグンダ・マルケタリアにより国軍部隊が攻撃され、軍人2名が死亡した。

オ 24日、アラウカ県において、主にELNにより未成年者4人を含む計19人が誘拐された。

(4) サルバトーレ・マンクーツ元コロンビア自衛軍連合 (AUC) 司令官の釈放

11日、麻薬密輸罪で服役していたマンクーツ元AUC司令官が18年間の刑期を終え釈放された。これに対し、AUCによる暴力の被害者たちがこの釈放に強く反発した。他方、ペトロ大統領はマンクーツ氏を政府の和平担当官に任命する方針を示した。

(5) EMC との和平交渉

9日から15日、政府はEMCと第5回和平交渉を行った。EMCは、イバン・モルディスコに率いられるグループとカラルカ・コルドバを中心とするグループに分裂しているが、今次交渉にイバン・モルディスコ派は参加せず、カラルカ・コルドバ派を中心としたグループとの一時停戦合意が10月15日まで延長された。他方、EMCによるテロ活動は継続的に行われており、複数の知事が停戦合意延長に反対していた。

(6) 大統領による年金改革法署名式典開催

16日、ペトロ大統領は、6月に議会で可決された年金改革法を成立させるための署名式典を市内で開催した。同式典において同大統領は、コロンビアに根強く残る不平等の原因が銀行、マスコミ、議会、司法、地主といったセクターにあるとしてこれを批判した。また、年金改革法に対し複数の違憲審査申請が行われていることから、今後これを審査する司法に対し違憲判決を下さないよう牽制する発言を行った。

(7) 議会関連

ア 20日、議会において開会式が開催され、ペトロ大統領が施政方針演説を行った。同大統領は、国家防災局（UNGRD）を巡る汚職スキャンダルにおける政権関係者の関与疑惑について謝罪すると共に、今後の各種改革に向けた国民的合意を呼びかけた。また、現政権による貧困対策の成果について強調した。

イ 20日、エフライン・セペダ上院議長、ハイメ・サラマンカ下院議長が任命された。

ウ 23日、クリスト内務大臣が与党・歴史同盟の議員と会談し、農地改革に関する国民合意を推進することが今会期の優先事項であることを確認した。

（8）保守党初の女性党首誕生（25日）

25日、保守党は、上院議長に就任したエフライン・セペダ上院議員の後任として、ナディア・ブレル上院議員を党首として選出した。ブレル党首は、175年の歴史を持つ保守党で初の女性党首となった

（9）コロンビアで武力紛争犠牲者増加

30日、違法武装組織の活動を通じた武力紛争犠牲者数が973万人に上ると報じられた。コロンビア政府は犠牲者に対する補償に取り組んでおり、政権任期末までに60万人以上の被害者に対し補償を行うことを目指している。他方、国内では強制移住、強制失踪、殺人、誘拐、監禁等の被害が継続している。

（10）世論調査

Datexco 社世論調査によると、ペトロ大統領に対し肯定的な見方をする国民の割合は25%、否定的な意見をもつ国民の割合は61%であった。他方、Invamer 社世論調査によると、大統領に対する好意的なイメージは34.6%、否定的なイメージは58.3%であった。

【外交】

（1）ペトロ大統領、パナマ大統領就任式に出席

1日、ペトロ大統領はパナマを訪問し、ムリーノ新大統領就任式に出席した。また、両大統領は二国間首脳会談を行い、ダリエン地峡を巡る移民問題等について協議した。なお、ムリーノ大統領は、大統領就任演説において、ダリエン地峡に続くコロンビアからの複数の国境を閉鎖する方針を示したが、コロンビア関係者はこの方針に対し懸念を表明した。

（2）ペトロ大統領、国連安保理コロンビア会合に参加

11日、ペトロ大統領はNYを訪れ、国連安保理コロンビア会合に参加した。同会合において同大統領は、2016年和平合意履行促進に向けた農地改革の必要性について説きつつ、そのための国内的方策について説明した。

(3) ムリージョ外務大臣のブラジル訪問

25日及び26日、ムリージョ外務大臣はブラジルを公式訪問し、ヴィエイラ伯外務大臣との二国間外相会談では、貿易、観光、エネルギー移行、グリーン水素といった分野における両国協力について協議を行った。また、生物多様性条約 COP16 に向け両国で協力を加速することで合意した。

(4) ペトロ大統領の訪仏

24日～29日、ペトロ大統領は、パリ・オリンピック開会式出席等のため訪仏した。25日、ペトロ大統領はイダルゴ・パリ市長と会談し、気候変動対策や生物多様性条約 COP16 を巡る協力等について話し合った。26日、ペトロ大統領はアルコセル大統領夫人を伴い、オリンピック開会式に出席した。

(5) コロンビアと米国、麻薬密売撲滅に関する合意を発表

25日、コロンビアと米国は、コロンビア国内における麻薬撲滅の成果を計るための指標に関し合意した。同合意はコカ葉栽培の撲滅に焦点が置かれており、麻薬撲滅に向けた作戦能力の向上や専門訓練といった対策における協力についても言及されている。

(6) ベネズエラ、大統領選挙に関連したコロンビア人の入国を拒否

26日、ベネズエラ大統領選挙プロセスに参加するために同国へ入国しようとしたコロンビアのマリア・ラミレス元副大統領がベネズエラ当局から入国を拒否された。また、野党指導者のマリア・コリーナ・マチャド氏との会談を予定していたアンヘリカ・ロサノ上院議員も同様に入国を拒否されたところ、同議員はベネズエラ当局の対応を批判した。

(7) ベネズエラ大統領選挙に関するムリージョ外務大臣の声明

29日、ムリージョ外務大臣は、28日に実施されたベネズエラ大統領選挙に関し、透明性と選挙保証の優先及び独立した検証と監査を通じた票の集計を呼びかける声明を發した。

(8) コロンビア、ベネズエラ大統領選挙に関する米州機構（OAS）決議案の投票を棄権

31日、コロンビアは、OAS 常設委員会において討議された、ベネズエラ大統領選挙プロセスの検証を求める決議案の採決を棄権した。コロンビア外務省は、ベネズエラが2019年に OAS を脱退したことを棄権の理由として説明した。

(了)